

2023年11月20日 「勤労感謝の日」「感謝の集い」から

皆さん、おはようございます。朝晩とてもさむくなりました。一気に冬が近づいた感じがします。空気も乾いているので喉などを守るようにしてください。インフルエンザも増えているようです。元気な皆は寒さに負けぬように気持ちでも頑張りましょう。

先週木曜日には「感謝の集い」が行われました。今週23日の「勤労感謝の日」に先駆けて、集会を開き、感謝の集いの意義について児童会のリーダーのもと、皆で考え、校内、校外でお世話になっている方々に、日頃の感謝をお伝えすることができたことと思います。心温まる、とても良い時間を過ごすことができたと感じています。

さて、23日の「勤労感謝の日」は今年最後の国民の祝日となります。

「勤労感謝の日」の由来は何だったのでしょうか？既にお話をしているので、わかる人もいるでしょう。ぜひ、覚えておいて欲しいことなので、簡単にお話します。

勤労感謝の日は、今から75年前の1948年に国民の祝日として定められました。元々11月23日は、新嘗祭（にいなめさい）といって、1300年前の日本書紀にも記されている宮中の伝統行事で日本各地でも祝い事が行われていました。ここでは、五穀豊穡といって、米、麦、粟（あわ）、豆、黍（きび）の食生活に欠かせない穀物の収穫を祝って、神様にささげる儀式が行われてきたのです。



この新嘗祭が「勤労感謝の日」になったのは、太平洋戦争が終わった後の1948年（昭和23年）で、戦争に勝ったアメリカやイギリス、中華民国やソビエトなどの戦勝国（連合国軍最高司令官総司令部）の政策により改められました。

そして、古くからの習慣を新しいものに変えるために、「新嘗祭」を「勤労感謝の日」と改め、11月23日に固定されました。

そこには、新しくなった「日本国憲法」の中の国民の3大義務の一つである、「勤労の義務」が示され、「勤労を尊び、生産を祝い、国民たがいに感謝しあう日」となったわけです。

現在は、農作物に限らずすべての生産を祝い勤労をねぎらう「勤労感謝の日」になっていますが、その由来から、日本人が育んできた深い思いや感謝の念を感じることができます。あらゆる方々に感謝をするのはもちろんですが、改めて、家族の間でも「ありがとう」「おつかれさま」と声をかけ、いたわり合う姿勢を忘れないようにしたいですね。

さて、6年生は第2回目の実力テストが終わりました。お疲れ様でした。6年間の総まとめの時期にもなってきましたね。2か月後には中学入試が始まります。慌てる気持ちもあるでしょうが、きちんと立てた計画通りに一つ一つ取り組んでください。受験は一人ひとりですが、実は団体戦なのです。全員が入試向かう姿勢、意気込みこれが続く学年やクラスは力を発揮します。先生方も、下級生たちも応援しています。常に自分一人でやっているのではないという気持ちを持って、取り組んでください。何よりも心と体の健康が第一です。皆で頑張りましょう。